

我が国に多いがんに対する診療機能

記載の有無 あり
 ※表紙①に反映されます

病院名: 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター

期間: 平成26年9月1日現在

※原発票に記載すること。

1. 肺がん

○: 専門とするがん △: グループ指定により対応しているがん ×: 診療を実施していないがん
 ※別紙4に入力した内容が反映されています。
 ※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

集学的治療・標準的治療の提供体制
 ○: あり △: グループ指定により対応(地域がん診療病院のみ選択可) ×: なし ○

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数	治療の実施状況 (○: 実施可 / ×: 実施不可) / 昨年実績(あり/なし) ※平成25年1月1日～12月31日								各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
	主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を 専門として いる医師数	手術		化学療法	放射線療法			ページの見出しとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容			
			開胸 手術	胸腔鏡 下手術		体外 照射	定位 放射線 療法	小線源 治療	光線力 学療法			治療内容	治療実績	医師の 専門 分野
1 呼吸器外科	2	2	○	○	○	×	×	×	×	外科呼吸器部門では胸部悪性腫瘍を専門とする内科、放射線科(放射線診断、放射線治療)、臨床検査科(病理)との共同診療体制のもとに、肺癌などの胸部疾患に対する手術治療を行っています。	ア http://www.onh.go.jp/surgery/html/sikkan/kokyuuki.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 呼吸器内科	4	4	○	○	○	×	×	×	×	肺癌を専門とし、肺癌の診断および治療に特化して診療を行っています。組織型(小細胞癌、非小細胞癌)、病期、全身状態、年齢、合併症などを考慮して、日本肺癌学会肺癌診療ガイドライン、ASCO(米国臨床腫瘍学会)ガイドライン等を参考として、呼吸器外科、放射線科、臨床検査診療部(病理)などと合同で症例検討会を行って治療方針を決定しています。	ア http://www.onh.go.jp/intern/kokyuuki_g/r_t_medicine.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3 放射線治療科	2	2	×	×	×	○	×	○	×	放射線治療は、目に見えない放射線という物質を巧みに操ることで腫瘍性疾患を消滅・縮小させるものです。うまく使えば手術や化学療法以上に素晴らしい力を発揮します。もちろん欠点もありますから、他の治療との連携が非常に重要です。そして、患者さんの意識がある状態で行うことが多いので、患者さ	ア http://www.onh.go.jp/radiolog/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
4											ア http://			
5											ア http://			

グループ指定を受ける施設との連携状況
 ※グループ指定を受ける場合のみ記載すること

例: 肺がん
 肺がん、転移性肺腫瘍、胸膜腫瘍、縦隔腫瘍